

「おまるめ山バス」がつなぐ人とまち～地域が主役の利用促進

中野正 / 小谷小学校区おまるめ山バス運営協議会

槇田智子 / 東広島市 交通政策課

交通政策課

岡田あかね・宮地岳志 / (株)バイタルリード

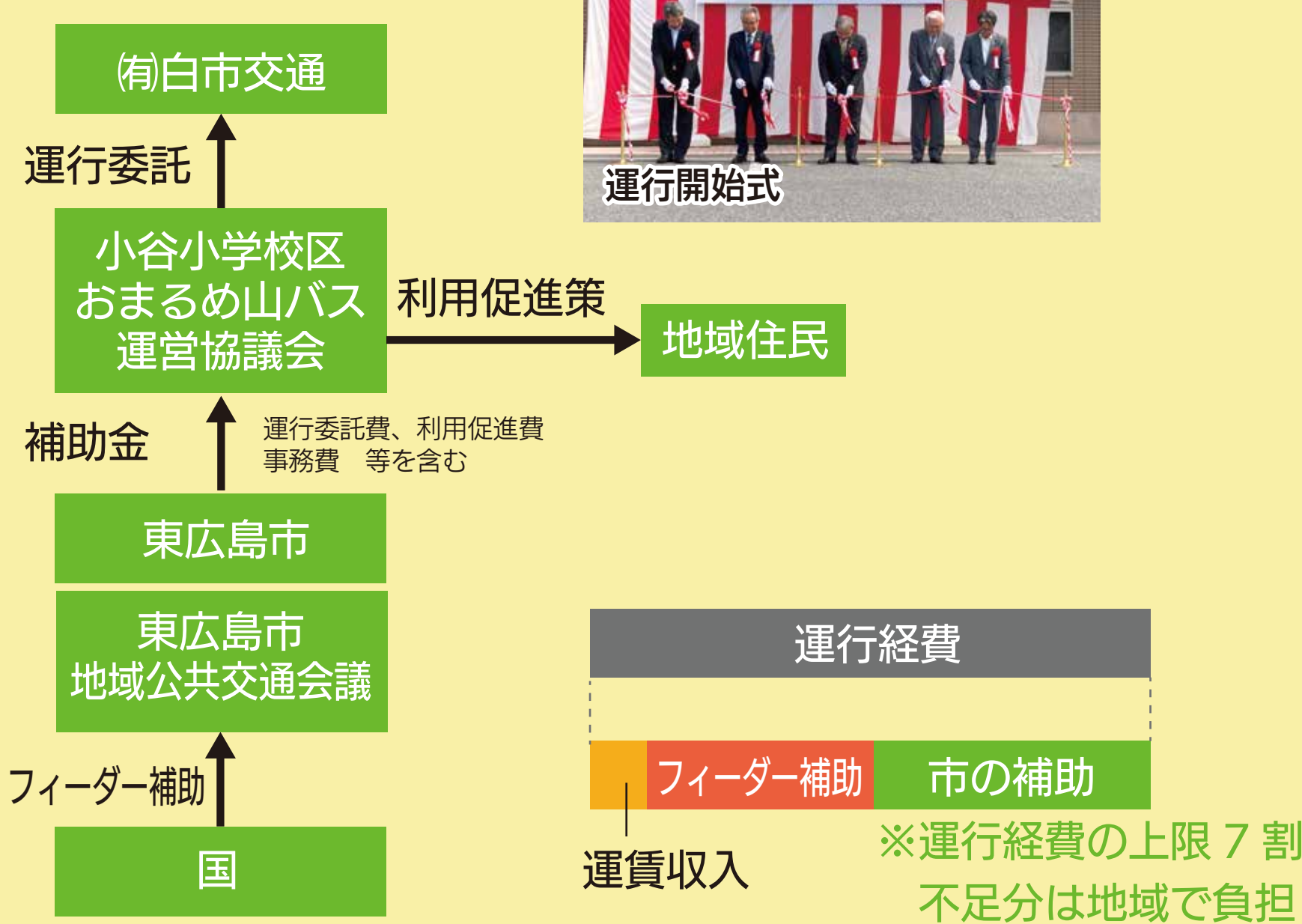
1 背景と経緯

東広島市にある小谷小学校区は、従来からある家々と田畑、年代の異なる団地群とが混在するエリアである。エリア内には JR 山陽本線の広島シティネットワークの東端で広島空港の最寄り駅となる JR 白市駅が立地しているが、多くが公共交通空白地域となっており、住民の移動手段確保が急務であった。

一方、東広島市では、市が交通事業者へ委託して運行する方法から、住民団体に補助金という形で支援しながら住民主体で運行する方法を推進しているところであった。

そこで、小谷小学校区においては「小谷小学校区市民協働まちづくり協議会」を母体とし、市とコンサルが入って 2022 年度より移動手段の検討を開始した。検討会を毎月開催し、住民アンケートやマップづくり、現地調査を含めて検討を重ね、地元でタクシーを運行する白市交通の全面的な協力を得て、2023 年 10 月より「おまるめ山バス」の運行が始まった。現在は「小谷小学校区おまるめ山バス運営協議会」と改組し、運行改善や様々な周知・利用促進を行っている。

おまるめ山バスは、フィーダー補助の対象となっており、この補助と運賃収入で賄いきれない赤字部分については全体の経費の 7 割（初年度に限り 10 割）を上限に市が補助を行う。補助からあふれた赤字分は地域負担となるため、地域は運行改善や利用促進を積極的に行っている。



2 おまるめ山バスの運行概要

(2024 年 9 月改正)

形態	定時定路線型・4 条乗合 小谷小学校区おまるめ山バス運営協議会が (株)白市交通に運行委託
路線	5 路線（8 系統）
便数	週 2 日ずつ・4 便 / 日
車両	専用のジャンボタクシー 1 台
運賃	一乗車（大人）200 円（小児）100 円 11 枚綴り 2000 円で回数券を販売



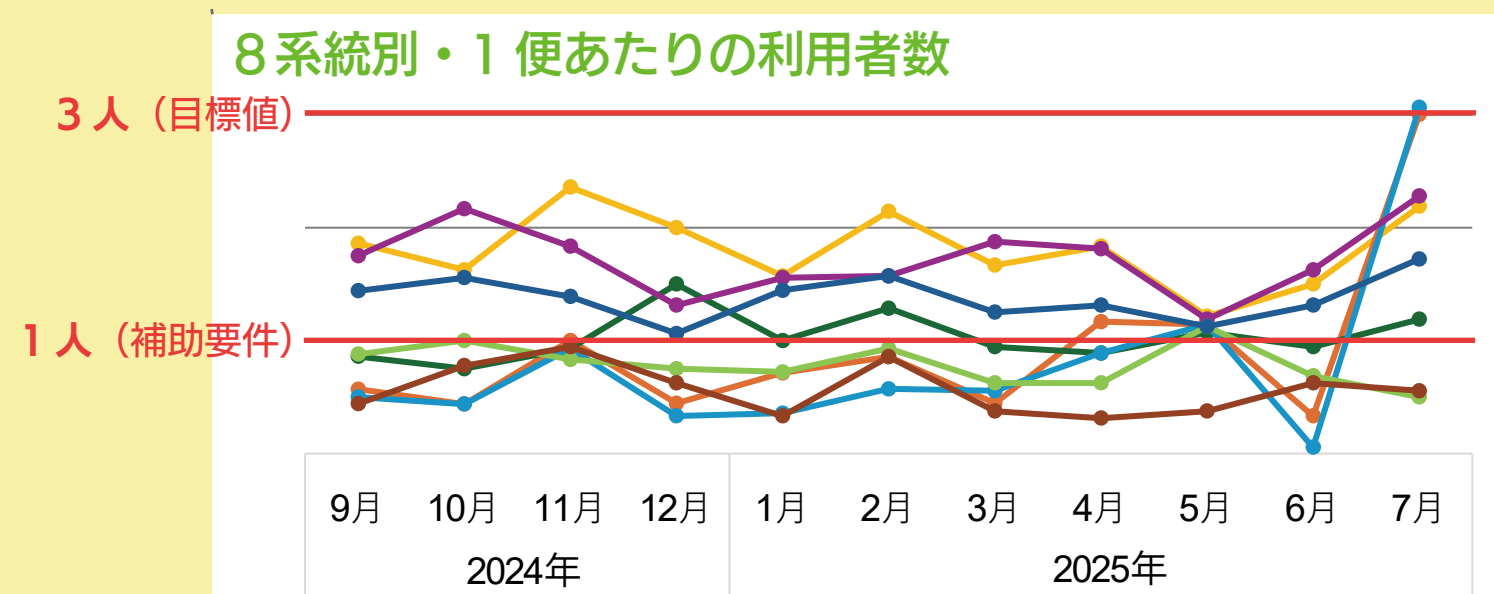
おまるめ山バスキャラクター（通称：おまるめくん）

「おまるめ山バス」の名は、小谷小学校区を見守る大丸目山（おまるめやま）から名付けられた。これを基に山をモチーフにした大きくて丸い目のキャラクター通称おまるめくんが誕生！緑豊かな小谷小学校区内で目立つように、鮮やかな黄色をテーマカラーに設定した。

利用状況



「おまるめ山バス」は 1 便あたりの目標値を 3 人としているが、フィーダー補助の要件を満たすため 1 便あたり 1 人を最低限の目標として設定している。



3 運営協議会の利用促進取組

運行開始の初年度はコンサルが入り利用状況のモニタリングや、運行改善案の計画、利用促進の取組支援などを行った。その他、まちづくり協議会では里山応援活動の一環として運行経路の樹木伐採を行うなど協力している。

■おまるめくんの活用



■おまるめ山バスだより



2カ月に 1 回、運営協議会で作成して回覧。スローガンとともに利用状況やお知らせ、おすすめの利用例などを掲載。

■高齢者を対象にした乗り方教室



地域の高齢者が集まるサロンにおじゃまして、市の職員とコンサルによる劇で利用方法などをしっかりと説明する他、

MY 時刻表作りや試乗体験も。説明会参加者には、まずは 1 回乗ってもらうため、まちづくり協議会から回数券を進呈。

■乗り方動画



地域の方（女性とお孫さん）にモデルになっていただき、乗り方動画を作成。運賃の払い方、フリー乗降の方法の他、運転士さんからのメッセージも。

■ペーパークラフト



牛乳パックに貼り付けるペーパークラフト。保育園で活用していただいた。自分でマップを作って遊ぶ子ども。

■子どもの絵がバス停に！



地域の夏まつりで、子どもたちにおまるめ山バスの絵を描いてもらった。集まった作品は、各バス停時刻表に取り入れて掲示中。



■小学生無料券



夏休みに合わせ、小学生に無料券を配布。おまるめ山バスの自由研究をした児童、学童保育への通所に利用した児童も！

4 地域の自主的な取組への発展

■地区運動会の新競技に



大人たちが段ボール製おまるめ山バスに乗って借り物競争！本物のおまるめ山バスもグラウンドに登場した。

■郵便局が窓を装飾！



地域の郵便局が窓を大きく使っておまるめくんの絵を描いてアピール。

■各地区の個別の時刻表



全体の時刻表はわかりにくい、我が地区だけの時刻表がほしい！と独自に作成。

■お花見会やお食事会の移動に

住民が集まって、おまるめ山バスのダイヤに合わせてイベントを実施。

■地区スポーツ大会の景品として回数券を贈呈

5 おわりに

このように各種取組を行っているが、その効果検証まではできておらず、今後の課題であると考えている。地域で行った独自の周知・利用促進等により乗車マインドが底上げされたのは、運営協議会の熱意が地域に伝播したものと考えられ、また、おまるめくんの存在も一助となったのではないかな。高齢者だけでなく子供や若い世代からも愛され、生活に根付いたおまるめ山バスを目指し、今後もおまるめくんと共に取組を続けていく。最後に、小谷小学校区のみなさん、運行を担う白市交通のみなさんにお礼申し上げます。